

琵琶湖・淀川流域圏を再生しましょう。

歴史・文化を活かし自然と共生する

今から50年ほど前まで、琵琶湖・淀川流域のあちこちに夏に冷たく冬に温かい、おいしい井戸水がありました。川の浅瀬、ワンドなどには水族館でしか見られなくなった魚たちが藻の間を陽光にきらめきながら泳いでいました。その頃の子どもたちは、魚つかみに夢中になり魚とともに泳ぎまわったものです。初夏にはホタルが舞い、秋にはアキアカネの群れが飛ぶ風景もありました。また、街中には穏やかな空気が流れ困った時には助け合う人情がありました。

その後、高度経済成長に伴い、物の豊かさ・便利さと引換に豊かな自然や人情など失ったものが数多く出てきたのです。人々は、そのことに気づき始め、身近な流域のあちこちで「生態系の調査や保全活動」や「自然再生への挑戦」、「人と自然・人と人のつながりをとり戻そうとする活動」などさまざまな取り組みが始まったのです。そして、それぞれの活動を通じて得られた共通の事柄は新しい仲間ができると、新しい発見があり「元気が出る」という気づきでありました。

そこで、私達は「楽しく、美しく、みずから、気軽に」をキーワードに琵琶湖・淀川流域圏で、すでに始まっている様々な活動を地域に拡大し、活性化しようと思いました。同時に、それぞれの河川と琵琶湖・淀川上下流の交流を通じて、相互理解を深め起こりがちな利害の対立を共通の課題へと高めることにより流域圏の再生を図ることが大切だと考えました。このために、ある時は住民独自でまた、ある時は行政をはじめとした様々なところと協働で課題の解決に取り組めるような活動をめざして個々の活動をゆるく繋いだネットワーク、「琵琶湖・淀川流域圏連携交流会」を設立しました。

山から海へ。下流から上流へ。自由に移動して流域のいろんな人々と交流しながら互いに元気のパワーを交換したいと願っています。まだ見ぬ子孫の世代へ、素晴らしい環境を継承するために一人でも多くのご参加を心よりお待ちしております。



「琵琶湖・淀川流域圏連携交流会」は、三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良を結ぶ、新たな広域連携組織です。各地域の個性と魅力を活かしながら、流域の総合的な向上をめざします。



1 流域を結ぶ・広げる

交流会や勉強会を開催し、気軽に知り合い、話し合える場を提供。それらの交流から生まれる新たなアイデアや共通の課題などを掘り下げ、広域連携に関する企画を立てていきます。

2 活動団体が元気になる

会員相互の情報交換により流域全体の情報を収集・集約し、流域の内外へ発信。また、会員の知識・体験・活動の質的向上をめざし、人づくり、ネットワークづくりを支援します。



3 再生の役割を担う

流域を意識して結びつなげることで、個々の活動を活発化。行政との協働をはじめ、さまざまな事業を通じて、流域の総合力を発揮するビジョンを創り、流域の再生を図ります。

- 琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 設立発起人 (50音順)
- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 石山郁慧 (人を自然に近づける川いっい会) | 中本二郎 (猪名川・神崎川水質研究グループ) |
| 川上 聡 (木津川源流研究所) | 野田晃弘 (NPO法人 蒲生野考現倶楽部) |
| 小坂育子 (水と文化研究会) | 橋本夏次 (近木川流域自然大学研究会) |
| 小丸和恵 (子ども川とまちのフォーラム) | 丸井晶子 (ひらかた環境ネットワーク会議) |
| 鈴木康久 (カップ研究会) | 村松光男 (白川源流と疏水を美しくする会) |
| 田中俊雄 (草津登) | 山村武正 (NPO法人 やましろ里山の会) |
| 丹波道明 (東近江水環境自治協議会) | 横山 葵 (NPO法人 人と自然とまちづくり) |
| 中西崇雄 (NPO法人 地域と自然) | |

